
IS-インフィニット・ストラトス-遺跡を守る妖精

飛焰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS - インフィニット・ストラトス - 遺跡を守る妖精

【Nコード】

N1551R

【作者名】

飛焰

【あらすじ】

アーカムの新人エージェントアカツキ カズマ 一真はオーパーツ奪取任務中に崖に追い込まれ絶体絶命のピンチに追い込まれてしまう。絶対絶命のピンチから脱出するために崖から飛び降りることを決意。決死の思いで崖から飛び降り「あとは、運を天に任せるだけだ。」そう思いまぶたを閉じた。まぶたを閉じると同時にカズマが背負っていたバックパックから異様な光を放ちカズマを包み込んだ。次に目を開けるとそこは……飛焰の初作品です。文学の才能皆無なので、誤字脱字、原作崩壊、キャラ崩壊があるかもしれませんが生暖かい目

で見てください。

プロローグ（前書き）

はじめまして飛焰です

初作品なので楽しんでいただければ幸いです

プロローグ

ウーーン、ウーーン、ウーーン
警報装置がけたましく鳴り響いている。

「緊急指令！緊急指令！発掘中のオーパーツが何者かに奪取された。各隊は侵入者を捕らえ、奪取されたオーパーツを奪い返せ！繰り返し……」

ここは、某国山中の古代遺跡。ここでは、某国の軍隊により古代遺跡の発掘が行われていた。

「やれやれ、もう見つかつちまったか……」

侵入者である彼は、遺跡から少し離れた森の物陰で呟いた。

彼は、バイクのライダースーツの様な服装の上にジャケットを着ている。さらに、ヘッドギアを頭に身に付けていた。

彼の名前は暁カズマ。

彼は、命令により古代遺跡の中にあるオーパーツを奪取するために遺跡に侵入したのであった。

「だが、あとはこれを無事に届ければ俺の任務は終了。落ち着いて学校に行けるぜ。」

そう言いながら彼は、遺跡から奪取したオーパーツをバックパックに詰め込んだ。

その時、ヘッドギアに内蔵された、通信機に定刻通りの連絡が入ってきた。

「H.Qより、妖精へ、首尾はどうだ」

妖精は、彼が所属する組織のエージェントにつけられるコードネームである。

「こちら、妖精…すいません侵入したことがバレたみたいです。」

周辺に敵兵がないことを確認してから注意深く呟く。

「そうか、仕方ない予定通りヘリでお前を回収する。何とか、奴らを撒いて来い。」

「了解」

通信を切り、合流場所に向かい走り出した。

「さて、ヘリを使われたら厄介だしそろそろこいつを……」

そう言いながら、仕掛けてきた爆弾のスイッチを入れた。

通信から10分後

ドドドドドドドドドドドドドドドド

古代遺跡を警備していた部隊が撃ってきた弾が飛んでくる。

「クソ、もう追いついてきやがったか」

飛んでくる弾丸を木を盾にしながら呟いた。そんな時、良くない通信が届いた。

「H Qより妖精へ、お前を回収するはずだったへりが撃墜された」
「なんだって!?!」

「すぐに、代わりを回す、それまで生き延びてくれ」

「待ってくれ、そんなこと」

「通信終了」

強引に通信は切られてしまった。

「クソ」

カズマは盾にしている木を殴った。

「こうなったら、とことん逃げてやる。」

そういつて、バックパックから身に付けられるだけの装備を身に付けた。

「まずは、こいつだ!」

そう言いながら、手榴弾とスモークグレネードを後ろに投げつけ爆発したのを確認してから前に全力で走り出した。カズマを発見した敵兵が発砲してくる。発砲された弾丸がカズマの背中に当たるがカズマは、構わず走り続ける。なぜ弾丸が当たっても大丈夫なのかというカズマが着ているライダースーツの様な物に秘密があったA・
アイマード・マッスル
Mスーツ

オリハルコン

特殊合金、精神感応金属と人口筋肉の組み合わせで、できた最新テクノロジーの結晶である。あらゆる弾丸を跳ね返し、普段の30倍以上の力を引き出すことのできる、史上最強の戦闘服である。このスーツのおかげで弾丸が当たっても気にする事無く走り続けることができる。

最後の通信から30分後

カズマは崖に追い詰められていた。追跡部隊の隊長らしき人物が言った。

「小僧、遺跡から奪取したオーパーツを返すなら命だけは助けてやるうー!!」

「(そんなこと言ったってどうせ渡しても撃つくせによ)」

そんなことを思っていると再び隊長らしき人物が言った。

「10秒くれてやろう、それまでに考えろ!!」

「10」

カウントが始まった。

「9」

後ろを見る。

「8」

崖の下には海になっていた。

「7」

そこには、いくつかのゴツゴツした岩が見えた。

「6」

もしも、岩に当たらなかつたとしても落ちたところが浅い可能性が残る。

「5」

そう思いながら、もう一度前を見る

「4」

15人程度の敵兵はアサルトライフルを構えている。突破は不可能。

「3」

覚悟を決めるしかない。

「2」

再び後ろを見る。

「1」

覚悟を決め一歩を踏み出した。

「何!？」

そんな言葉が聞こえた気がした。

カウントをしていた隊長らしき人物が兵士達に言った。

「何をしている、行け！」

兵士は慌てて崖に向かう。

「（あとは、運を天に任せるだけだ。）」

そう思いまぶたを閉じた。まぶたを閉じると同時にカズマが背負っていたバックパックが異様な光を放ちカズマを包み込んだ。次の瞬間、カズマは世界から消えた。

プロローグ（後書き）

感想お待ちしております

設定 + 用語 (前書き)

主人公の設定です

設定 + 用語

名前 暁 一真 (アカツキ カズマ)

アーカム財団のエージェント、スプリガンの新米スプリガン。ナイフと体術を使った接近戦を得意としている。射撃は苦手で本人曰く「数うちや当たる」

両親がアーカムの遺跡発掘チームに所属、よく発掘現場に付いて行くことがある。6歳の時、両親と共に遺跡発掘現場に来ていた一真は、発掘現場近くの町に遊びに行っている間に遺跡発掘チームが対立組織に襲撃され全滅、一真だけが生き残った。その事件の影響で自分の意思でスプリガンになることを決めた。都心のアーカムが資本金で運営している学校に通っている。任務のためによく学校を休んだり早退することが多く、そのため主席日数がギリギリである。

イメージ マサキ・アンドー (魔装機神 THE LORD OF ELEMENTALより)

髪 黒

性格 静かに燃える熱血漢。

趣味 読書、釣り、登山、サバイバル、賭け事、ゲーム、料理

- アーカム -

ある遺跡から発掘された金属板に、その超古代文明の人々からと思われる警告が記されていた。「我々の残した遺産を、悪しき者より守れ」と。そのメッセージに従い遺跡から発掘された、オーパーツをあらゆる権力から守り、封印もしくは破壊を目的とする組織である

- スプリガン -

アーカムに所属するS級エージェント。
任務達成率は限りなく高い。名前の由来は財宝を守る妖精スプリガンから

アーマード・マッスル
- A・Mスーツ -

特殊合金、精神感応^{オリハルコン}金属と人口筋肉の組み合わせで、できた最新テクノロジーの結晶である。あらゆる弾丸を跳ね返し、普段の30倍以上の力を引き出すことのできる、史上最強の戦闘服である。

設定 + 用語 (後書き)

ISは登場しだい追加します

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1551r/>

IS-インフィニット・ストラトス-遺跡を守る妖精

2011年10月8日18時55分発行